

日本人類学会
2019年度 評議員会・総会資料

日時：2019年10月13日（日）11:36～14:00
場所：佐賀大学本庄キャンパス教養教育2号館2101

次第

1. 開会の辞

2. 会長挨拶

3. 議長選出

4. 物故会員への黙祷

5. 報告

- 1) 2019年度事業報告
- 2) 2019年度収支決算報告
- 3) 2019年度会計監査報告
- 4) 第73回大会 若手会員大会発表賞
- 5) 自然史学会連合の報告
- 6) 生物科学学会連合の報告
- 7) 国際人類民族科学連合（IUAES）の報告
- 8) 日本学術会議からの報告
- 9) その他

6. 審議

- 1) 2020・2021年度会計監査役の承認
- 2) 2020年度事業計画
- 3) 2020年度予算案
- 4) 新法人定款案について
- 5) その他

7. 閉会の辞

5. 報告

1) 2019 年度事業報告

1) - 1. 庶務 (学会)

(1) 会員

a) 会員異動状況 (2018 年 9 月 1 日から 2019 年 8 月 31 日)

入会：通常会員 19 名 (国内 19 名)，学生会員 16 名 (国内 16 名)

退会：通常会員 18 名 (国内 18 名，内評議員 6 名)，学生会員 2 名 (国内 2 名)，団体会員 2 名 (国内 2 名)

資格変更：学生会員から通常会員 3 名 (国内 3 名)，学生会員評議員から通常会員評議員 1 名 (国内 1 名)，通常会員から通常会員評議員 1 名 (国内 1 名)

b) 会員数 (2019 年 8 月 31 日現在)

正会員：通常会員 533 名 (国内 523 名，海外 10 名)，学生会員 96 名 (国内 96 名)，名誉会員 12 名，したがって正会員総数 629 名 (内評議員 129 名)

団体会員：50 団体 (国内 49 団体，国外 1 団体)

賛助会員：2 団体 (国内 2 団体)

c) 物故会員

目良誠氏 (2018 年 8 月ご逝去)

塩野幸一氏 (2018 年 11 月 19 日ご逝去)

檜崎修一郎氏 (2019 年 3 月 21 日ご逝去)

加藤征氏 (2019 年 3 月 24 日ご逝去)

(2) 新評議員

本郷一美氏 (2019 年 1 月 8 日理事会承認)

(3) 委嘱状の送付

評議員委嘱状 (本郷一美氏) (2019 年 1 月 15 日付け)。

(4) 諸会議

総会・評議委員会 1 回 (2019 年 10 月 13 日)

理事会 5 回 (2019 年 1 月 6 日，3 月 31 日，6 月 16 日，9 月 29 日，10 月 13 日)

(5) 学術集会

a) 第 73 回日本人類学会大会

日程：2019 年 10 月 12 日～10 月 14 日

会場：佐賀大学本庄キャンパス

大会長：篠田謙一 (国立科学博物館)

b) 公開シンポジウム「弥生人とは誰か—考古学・人類学が明らかにする最新弥生人像」

日程：2019 年 10 月 14 日

会場：佐賀県立美術館ホール

c) 第13回人類学関連学会協議会合同シンポジウム「社会と対話・協働する人類学：その可能性と役割」

日程：2019 年 6 月 1 日

会場：東北大学川内キャンパス

日本人類学会からは市石博会員が講師として派遣された。

d) 分科会 (大会の開催に合わせて実施された分科会のシンポジウム等については、実施日が

次年度〔総会の翌日以降は次年度となる〕に入っている、当該年度〔総会開催日まで〕の活動報告にまとめるものとする)

①キネシオロジー分科会

・ @ @ @ @ @

②骨考古学分科会

・ @ @ @ @ @

③進化人類学分科会

・ 第43回シンポジウム「”セクハラ”の進化人類学はどこまで可能か？」 2019年 6月22日(土) キャンパスプラザ京都(京都市) オーガナイザー: 鈴木 滋(龍谷大学国際学部)

・ 第44回シンポジウム「父系社会再考: ヒト亜科とクモザル亜科の比較研究」 2019年 10月12日(土) 佐賀大学本庄キャンパス(佐賀市) オーガナイザー: 古市 剛史(京都大学霊長類研究所)

④遺伝分科会

・ 日本人類学会遺伝分科会公開講演会 「飛騨高地住民のDNA解析より日本人成立過程がわかる」 住斉(東京大学大学院理学系研究科・客員共同研究員) 2018年11月17日(土) 15:00~17:00 東京大学(東京都文京区)理学部2号館201講義室

⑤ヒト・霊長類比較解剖学分科会

・ @ @ @ @ @

⑥ヘルス・サイエンス分科会

・ @ @ @ @ @

(6) シンポジウム等の共催(共同主催を含む), および協賛・後援の承諾

2019年1月29日付け依頼, 2月2日承諾回答: 2018年度 東北大学・春期骨学セミナー(歯・頭蓋)(2019年2月28日~3月3日, 東北大学)(後援)

(7) 2020・2021 年度日本人類学会会計監査役候補者選挙

会則および規定に従い, 選挙管理委員会が2019年7月16日付けで告示し, 2020・2021 年度日本人類学会会計監査役候補者選挙を2019年7月16日~7月30日の間に行った。選挙権者128名のうち投票者数は38名, 総投票数76票, 有効投票数73票, 投票率は29.7%であった。近藤恵氏(10票)、長岡朋人氏(9票)の得票上位2名が当選者となった。

1) - 2. 庶務(理事会)

(1) 河村正二理事、河野礼子理事、西村剛会員と協議し、(株)クバプロのアドバイスを受けながら新法人の定款・細則案を作成した。

1) - 3. 会計

(1) 会費請求を5回(うち督促3回)行った。

(2) 通常の支払い業務を行った。

(3) 第73回大会実行委員会に対し実施補助費として30万円を支給した。

(4) 分科会のうち申請のあった進化人類学分科会とヒト・霊長類比較解剖学分科会に対し、活動補助金として各々2万円を支給した。

(5) 人類学普及委員会に対し、活動補助金として20万円を支給した。

(6) 2019年9月20日, 会計監査役の近藤恵氏と長岡朋人氏により, 会計監査が実施された。(末

尾資料)。

1) - 4. 出版

- (1) 平成 30 年度機関誌 (Anthropological Science [AS], Anthropological Science (Japanese Series) [ASJ]) の出版状況。

AS 誌 126 巻 3 号 論文 3 編 (原著 2, 短報 1), 大会抄録

AS 誌 127 巻 1 号 論文 8 編 (レビュー 1, 原著 4, 資料報告 3)

AS 誌 127 巻 2 号 論文 4 編 (原著 3, 短報 1)

ASJ 誌 126 巻 2 号 論文 7 編 (追悼文 1, 原著 2, 雑報 1, 書評 3)

ASJ 誌 127 巻 1 号 論文 3 編 (原著 2, 資料研究報告 1)

- (2) 米 ISI 社, Journal Citation Report による Impact Factor

2018 年=0.688 (2017 年=0.618, 2016 年=0.971)

- (3) J-Stage で公開中の AS 掲載論文の年間 PDF アクセス数 (2018 年 9 月~2019 年 8 月)

AS 誌 =36,066 (前年比 19.9%増), ASJ 誌 = 46,377 (前年比 28.4%増)

- (4) AS 誌のさらなる発展について検討するため令和 1 年 10 月 13 日に編集委員会を実施した。

- (5) 科学研究費補助金 (研究成果公開促進費) 「国際情報発信強化(B)」の申請が不採択となった。

- (6) 学術著作権協会の転載複写の扱いを変更した。

- (7) 英文機関誌 Anthropological Science の次期編集長を東京大学の太田博樹教授に決定した。

1) - 5. 渉外 [国内]

- (1) 人類学会への寄贈和文雑誌・寄贈図書の受け入れについて従来通り処理した。

- (2) AS/ASJの印刷体残部の保管・整理を行った。

- (3) 2018年10月27日 (土) 生理人類学会創立40周年記念シンポジウム、創立40周年祝賀会が行われ、学会からは近藤修理事が出席し、祝賀会にて人類学会会長からの祝辞を代読した。

- (4) 2019年1月27日 (日) に、シンポジウム「考古学・人類学とアイヌ民族ーヒトと暮らしを探るー」(日本人類学会主催、日本考古学協会・北海道アイヌ協会共催、文部科学省後援)が、東京工業大学キャンパス・イノベーションセンター東京にて開催された。人類学会からは、「骨からわかるアイヌの暮らし」(近藤修)、「古代ゲノムから見た東ユーラシア基層集団ーアイヌ民族の位置を展望する」(太田博樹)が発表した。

- (5) アイヌ関連では、これからのアイヌ人骨・副葬品に係る調査研究の在り方に関するラウンドテーブル(2018年10月29日、2019年6月17日、9月12日)、「研究倫理検討委員会」準備委員会が複数回行われ、人類学会からは、石田肇氏、中務真人氏、近藤修理事、篠田謙一会長が交替で出席した。

- (6) 2019年8月2日 (金)、第36回北海道大学アイヌ納骨堂におけるイチャルパ(北海道アイヌ協会主催、北海道大学協賛)が執り行われた。日本人類学会からは、近藤修理事が参列した。

- (7) 2019年10月2日 (水)、第14回札幌医科大学におけるイチャルパ(札幌大イチャルパ文化体験交流の集い)が開催された(北海道アイヌ協会主催、札幌医科大学・日本人類学会協賛)。日本人類学会からは、近藤修理事が出席し会長挨拶を代読した。また、イ

- チャルパ後の本会主催の講演会が行われ、東京大学博物館の米田穰氏が講演を行った。
- (8) 2019年10月5日(土)生物科学学会連合 第20回定例会議が、東京大学にて行われ、人類学会からは、篠田会長と近藤理事が出席した。

1) - 6. 渉外 [国外]

- (1) 日本人類学会への寄贈欧文誌について、従来どおり処理した。
- (2) IUAES Inter-Congress 2019の案内をMLにて会員に配信した
- (3) IUAES news letterをMLにて会員に配信した(2回)。
- (4) Anthropos 2020の案内をMLにて会員に配信した。

1) - 7. 企画

- (1) 平成31年度日本人類学会賞の推薦はなかった。
- (2) 平成31年度Anthropological Science論文奨励賞は、選考対象となる論文がなかったため、受賞者無しと決定した。
- (3) 平成31年度シンポジウム・学術講演会等に対する科学研究費補助金(研究成果公開促進費)「研究成果公开发表(B)」は不採択だった。

1) - 8. 広報

- (1) 学会ホームページの適時更新をおこなった。
 - a) 会則、役員・編集委員・会員情報の更新。
 - b) ASJ 投稿規定, 若手会員大会発表賞, 学会大会, 英語 HP, その他掲示板の更新など。
- (2) 会員メーリングリストの配信(8回)。
- (3) 学会 HP サーバーの契約(サイエンスウェブ)の更新

1) - 9. 人類学普及

(1) 江戸川区子ども未来館小学生向けワークショップ「科学がときあかすヒトの進化 はじめての人類学」(全12回)として①「人類学はどんな学問なのか」、②「地球誕生～生命誕生～哺乳類の話し」、③「人類史 その1～猿人から新人まで～」、④「自分の博物館をつくろう!」、⑤「ヒトのからだの特徴～日本人のルーツを探る!～」、⑥「他の動物とヒトの比較 その1～体つき、手足の役割と進化～」を6回行った。

(2) 73 回人類学会大会(佐賀大学)において、主に中等教育教員を対象とした人類学普及委員会シンポジウムを「中高生における人類学研究の最前線!」(オーガナイザー:松村秋芳・米田穰)を開催した。

2) 2019 年度収支決算報告

末尾資料

3) 2019 年度会計監査報告

末尾資料

4) 第73回大会 若手会員大会発表賞

5) 自然史学会連合 2019 年度活動報告

藤田祐樹（人類学会代表）

- ・ ICOM 事務局サイトでの博物館の定義改訂に関わるパブリックコメント募集について加盟学協会等呼びかけた
- ・ 育志賞の推薦候補者 1 名について協議し、連合より推薦した。
- ・ ICOM 京都サイドイベントとして 9 月 4-5 日に国際シンポジウム「研究活動，資料収集，普及教育，アウトリーチを推進するツールとしての自然史博物館ネットワーク：アジアの事例研究」を開催。シンポジウム(9/4)31 名、ポスター展示会(9/4-5)409 名の参加があった。
- ・ 代表選挙に関する細則を整備したので、連合 HP に正式に掲載する。
- ・ 生態学会（2019 年 3 月）にてフォーラムを共催した。
- ・ 総会 | 今年度は 12/21（土）に予定。場所を検討中
- ・ 2020 年講演会は 1) 北九州、 2) 埼玉で交渉中。

6) 生物科学学会連合の報告

篠田謙一（人類学会代表）

7) 国際人類民族科学連合（IUAES）の報告

中野良彦（国外渉外理事）

IUAES Inter-Congress 2019 が、8 月 27 日～31 日までポーランドのポズナンにて開催された。来年度は IUAES Inter-Congress 2020 が、10 月 7 日～11 日までクロアチアのシベニクにて開催される予定である。

8) 日本学術会議からの報告

馬場悠男（日本学術会議第 24 期連携会員）

第24期の基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同自然人類学分科会は、山極壽一（委員長）、馬場悠男（副委員長）、河内まき子（幹事）、稲村哲也、印東道子、海部陽介、窪田幸子、斉藤成也、諏訪元、竹沢泰子、徳永勝士、長谷川壽一、宮崎恒二の13名で構成されている。分科会委員会は、オブザーバとして篠田謙一（日本人類学会より）および河村正二（日本霊長類学会より）を加え、令和元年7月28日に開かれた。主な活動報告と議論は以下のようなものである。

- ・ 第24期学術の大型研究計画「マスタープラン2020」は、海部委員が提出した「アジア人類史」の審査が継続中であり、審査結果の公式発表は来年1月とのこと。
- ・ 子供たちの顎と歯並びを健全に育てる活動については、第72回日本人類学会大会でシンポジウムを行ったが、学会員の関心は高くなかった。ただし、矯正歯科の専門家と協力して、専門家および一般へ向けの講演会を開催し、普及活動を続けている（馬場担当）。
- ・ 人類学の普及と人材育成を図るために、広義の人類学の高等教育（専門学校・学部・大学院とも）における教育の現状を把握することが重要という認識で合意し、学会員が担当する講義内容の悉皆調査アンケートを日本人類学会、日本文化人類学会、日本霊長類学会に依頼することとした。アンケートの具体的な内容は検討中である（河内・馬場担当）。

また、総合的な人類学を普及させる出版物の具体案として、放送大学のプログラムと関連して企画案作成を行うこととした（稲村担当）。

- ・ 「日本旧石器人研究の発展：沖縄の現場から」というシンポジウムを、自然人類学分科会主催、日本人類学会および日本霊長類学会共催により、7月28日に日本学術会議講堂で行った。出席者は約200名で、活発な意見交換があった。
- ・ 2020年3月1日に、日本学術会議の統合生物学委員会の自然人類学分科会、地域研究委員会の多文化共生分科会、文化人類学分科会の三者共催で、学術フォーラム「ヒトの「ちがい」って何だろうー人類学者が文理融合で語るグローバル時代の日本」を学術会議講堂で行う予定である。
- ・ 日本文化人類学会よりオブザーバとして清水展氏が参加することになった。

9) その他

6. 審議

1) 2020・2021 年度会計監査役の承認

次の2名の候補者について承認をお願いしたい:候補者選挙で選ばれた近藤恵氏、長岡朋人氏。

2) 2020年度事業計画

(1) 諸会議

総会1回（2020年10月）、代議員会1回（2020年10月）、理事会5回

(2) 学術集会

a) 第74回日本人類学会大会

大会長：安達登（山梨大学）

会場：未定

日程：未定

b) 各分科会

c) 第15回人類学関連学会協議会（日本文化人類学会、日本民俗学会、日本生理人類学会、日本霊長類学会、日本人類学会）合同シンポジウム

(3) 機関誌の冊子体、電子ジャーナル版をそれぞれ年間5冊分発行（AS：127巻3号～128巻2号、ASJ：127巻2号～128巻1号）

(4) 受理論文の早期公開（AS、ASJ）

(5) 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「国際情報発信強化(B)」の申請

(6) 科学研究費補助金（研究成果公開促進費）「研究成果公开发表(B)」の申請

3) 2020 年度予算案

末尾資料

4) 英文・和文機関誌の出版・配布形態に関するアンケート集計結果とその対応について

5) 新法人の定款・細則案について

6) その他